

課題名 33. ナシ大果生産のための摘蕾の程度

成果の要約
 大果を生産するにはできるだけ早く着果（花）を制限する必要がある、その意味で摘蕾は重要な管理である。そこで、摘蕾の程度を明らかにするため10年生新水を供試し、開花前に1果そう当たり1果残して摘蕾する区（1花蕾区）、3果残して摘蕾する区（3花摘蕾区）及び5果残して摘蕾する区（5花蕾区）を設け、それぞれ収穫時の果実の階級及び等級を調査した。
 (1) 摘蕾程度別の階級割合をみると3花蕾区が最も大果の割合が高く、L級以上の果実が50%以上を占めていた。
 (2) 等級割合では5花蕾区が秀品率が高く、ついで3花蕾区であった。
 (3) これらのことから総合的に判断すると摘蕾は1果そう3花程度残して行うのがよい。

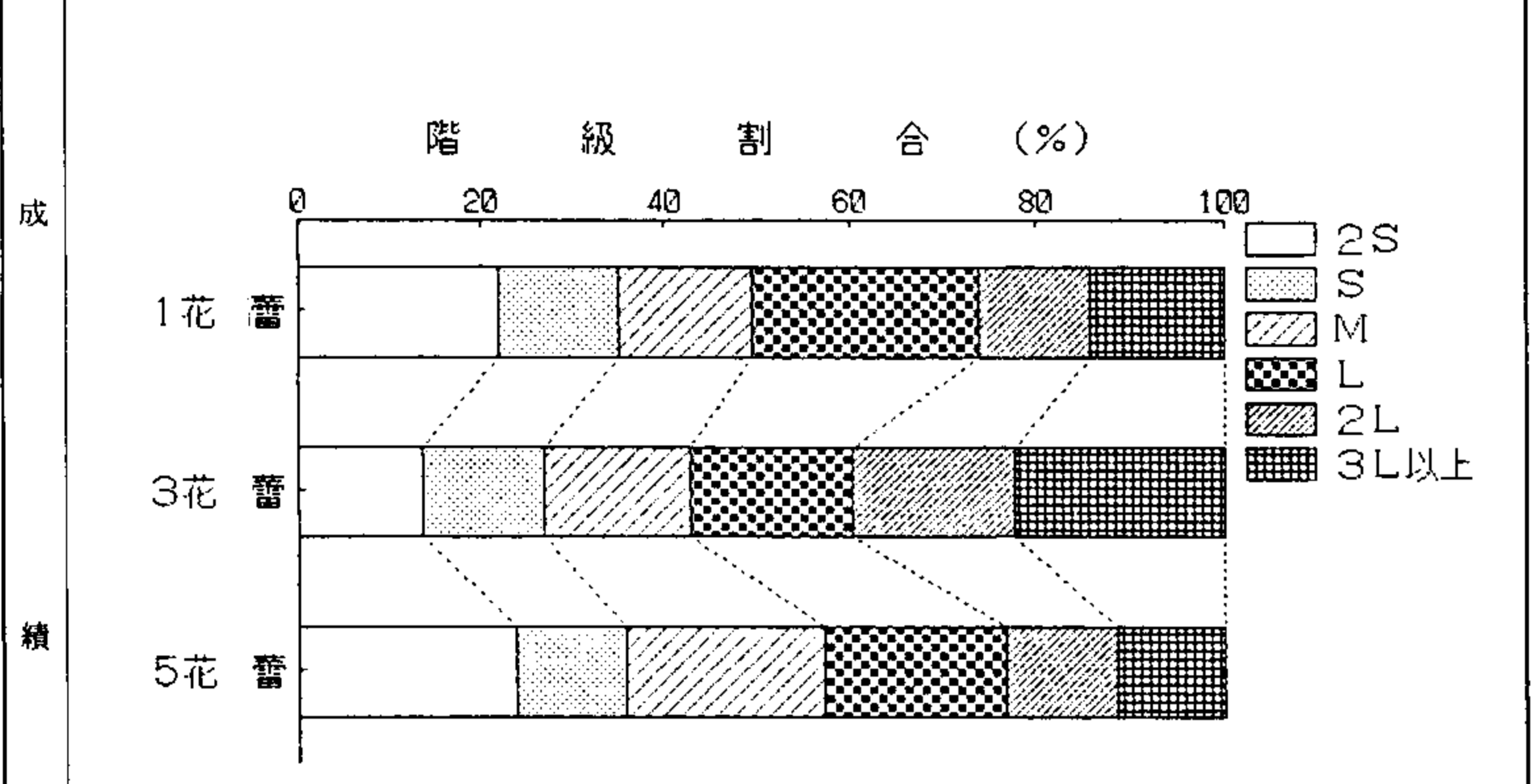


図1 摘蕾程度別の階級割合

概要
 要

